

常葉学園短期大学附属図書館之山文庫における 2008年学生利用者アンケートの結果と考察

大 場 博 幸*・望 月 かおり**

目次

1. はじめに
 2. 常葉短大と之山文庫
 3. 調査の概要
 4. 結果と考察
 - 4.1. 利用者の属性・利用目的
 - 4.2. 運営・サービス
 - 4.3. 蔵書構成
 - 4.4. 資料の配置
 - 4.5. 蔵書目録
 - 4.6. 新着図書と視聴覚機器
 5. 結論
 - 参考文献, 附録 (調査票と回答用紙)
-

1. はじめに

2008年9月、常葉学園短期大学附属図書館之山文庫は、本学学生の当館に対する認識と、設備・運営などにおける問題点を把握するため、アンケート調査を行った。いくつかの項目で良好な回答を得たものの、改善すべき点多々見つかった。この報告書は、調査とその結果について説明し、当館でどのような対処を考えているのかを記すものである。

2. 常葉短大と之山文庫

常葉学園短期大学は静岡市葵区の郊外に位置する。日本語日本文学科・英語英文科・保育科・音楽科の四つの学科と、国語国文専攻・保育専攻・音楽専攻の三つの専攻科を持ち、2008年度には合わせて854人の在籍者があった。学生の9割以上は静岡県内出身の20歳前後の女子であり、地域に根差した教育機関として評価されている。

その附属図書館である之山文庫は、キャンパスの中央に位置する、地上2階の建物である。短大が創立された1966年から開館し、いくつかの施設の変更・追加を経て現在に至っている。約100,000冊の蔵書を有し、近年の情報環境の変化に合わせてAV機器やインターネット接続端末など視聴覚機器の導入も進めてきた。

しかしながら、書籍を通じて自主的に学習するというスタイルを、現在の本学学生が身に付けているとはいえない状態である。このようななかで、学生の書籍を通じた学習を促すべく、当館スタッフはいろいろ知恵を絞っている。このアンケートは学生たちの図書館に対する認識を把握する意図で行われた。

*常葉学園短期大学、**常葉学園短期大学附属図書館

なお“之山（しざん）”というのは創立者・木宮泰彦（1887-1969）の号である。

3. 調査の概要

図書館利用調査アンケートは、2008年9月16日、本科・専攻科の全学年全学生を対象に実施された（有効回答数：736，有効回答率86%）。アンケート項目として、当館の利用頻度・利用目的、開館時間の長さ、蔵書構成の適切さ、検索機の利用しやすさ、その他要望等について回答を求めた。（実際のアンケート用紙は付録とした。）

なお、ほぼ同様の調査（常葉学園短期大学附属図書館，2006）が2005年11月に実施されており、当時の在籍学生776人から回答を得ている（在籍学生数：995人，有効回答率77%）。今回の調査といくつかの設問が異なるものの、結果と考察（第4章）において経年的変化を見るために、調査項目が重なる箇所では採りあげる。

また、本調査は学生を対象を絞ったもので、教職員に対してアンケートを行っていない。

4. 結果と考察

以下にアンケートの結果と考察を記す。トピック別に各節をまとめたが、Q20の回答については、該当する節に回答文を表示することとする。Q20が、図書館に対する要望を自由記述方式で書くよう求めた項目だからである（Q20質問文：全体的な希望・要望があったら書いてください）。

4.1. 利用頻度と利用目的

Q1では図書館利用の頻度を、Q2では利用目的を尋ねた。この二項目を、2005年のデータと比較する。さらにQ16・17で、貸出・閲覧・コピーといった標準的サービス以外の利用方法についての知識があるかどうか尋ねた。以下に結果を示す。

Q1. 図書館を利用したことがありますか

	2008	2005
週に1回以上	39%	27%
月に1回程度	30%	36%
ほとんどない・ない	31%	37%

Q2. 主にどのような目的で利用しますか（複数回答可）

	2008	2005
課題や研究のための資料収集	30%	37%
書籍・楽譜・雑誌・新聞等の閲覧や、CD・DVD等の視聴のため	20%	20%
試験勉強	15%	11%
空き時間の利用	22%	23%
コピー	12%	8%

Q16. 資料の閲覧・貸出・コピー以外のサービスを利用したことがありますか

ある	9%
ない	90%
無回答	1%

Q17. (Q16で「ある」と回答した人は) どのようなサービスを利用しましたか (複数回答・可)。

貸出中の資料の予約	41
資料の購入希望 (リクエスト)	38
雑誌記事 (論文) 検索	25
他の図書館からの資料の取寄せ (文献複写・資料借受)	17
他の図書館を利用する際の紹介状の発行	3
合計	124

前回2005年の調査結果と比較すると、2008年には利用頻度が上昇している (Q1)。2008年のQ2の利用目的において、試験勉強やコピーの内訳がやや高くなっている。利用頻度の上がった理由は、短大の設置する講義・演習において以前より図書館利用が促されるようになったという可能性が考えられる。

Q16の結果からは、ほとんどの学生が標準的サービス以外の利用方法を知らないことがわかる。さらに、Q17における数値の少なさから、他の図書館の資料を利用する手続き (他館利用・コピーの取り寄せなど) について学生があまり知らないことが明らかである。本学では卒業論文を執筆するコースもあり、学生が知っておくべきサービスだろう。館内掲示と図書館利用教育などによって周知してゆくことが今後の課題である。

4.2. 運営・サービス

図書館運営とサービスに関しても尋ねた。開館時間 (Q3)、貸出制度 (Q8,9)、職員の対応 (Q18,Q19) について尋ねた項目の調査結果を示す。

Q3. 開館時間 (平日8:45~19:00/土曜日8:45~13:30) について

現行の開館時間で十分である	83%
もっと開館時間を延長してほしい	17%

Q18. 司書の対応について

	2008	2005
良い	57%	46%
普通	40%	37%
悪い	1%	11%
無回答	2%	5%

Q8. 貸出について

今のままでよい	87%
改善してほしい	13%

Q9. (Q8で「改善してほしい」と回答した人は)理由はどれですか(複数回答・可)。

手続きが面倒	44
貸出期間が短い	100
貸出冊数が少ない	55
合計	199

現在の開館時間は8割強から支持されている(Q3)。おそらく、2008年4月から17:00より19:00に終了時刻を延長したためである。ただし、より長い開館時間を望む声も若干数ある。これに応じて、当館は、2009年度から朝8:45の開始時間をあらため、毎朝8:30からの開始を実施している。

貸出についてはわずかながら不満が見られた(Q13)。不満の半数は貸出期間が短いことに起因している(Q9)。書籍の場合、学生の貸出期間は2週間であり、他大学と変わらない。おそらく、不満の原因はDVDの利用に関してである。実際、自由記述式の設問項目(Q20)で、DVDの貸出を求める要望が数件見られた。本校は音楽科・専攻科が設置されており、演奏の映像に対する需要が高い。しかし、2008年度まで、当館では学生へのDVDの貸出を認めていなかった。このため、2009年度から、著作権処理済みの作品に限って、短期間の貸出を認めるよう変更した。

なお、司書の対応については良好な評価を得た(Q18)。回答文の紹介は省くが、近づきやすい印象と態度が評価されていることが、その理由を尋ねた自由記述の項目(Q19)の回答からわかる。ただし、2005年と2008年では職員が完全に入れ替わっており、単純な比較はできない。

4.3. 蔵書構成

蔵書に関して尋ねた項目(Q4,5,6,7)の結果を示す。Q4とQ5では、学習・研究用資料や教養書などが十分あるかどうか、Q6ではどのような資料の所蔵を望んでいるのかについて尋ねた。

Q4. 蔵書について。学習・研究に必要な資料が、本学図書館に所蔵されていますか？

はい	いいえ	よくわからない	無回答
38%	14%	48%	0%

Q5. 蔵書について。教養を高めるのに必要な資料が、本学図書館に所蔵されていますか？

はい	いいえ	よくわからない	無回答
38%	6%	56%	0%

Q6. 下記に挙げる定義の資料のうち、本学図書館で所蔵してほしいと思うものは何ですか？(回答2つ以内)

授業と関連する分野の入門用の著作・雑誌または視聴覚資料(新書など)	270
授業と関連する分野の研究用の著作・雑誌または視聴覚資料(専門書など)	380
授業とは直接関連しない、一般教養を高める著作・雑誌または視聴覚資料(資格検定本など)	240
授業とは直接関連しない、別の分野の専門的著作・雑誌または視聴覚資料(学科に関係しない専門書など)	183
上記以外	64
無回答	17
合計	1,154

Q4,5では、よくわからないという回答がそれぞれ半数近くを占める。おそらくその理由は、学生が図書館をそれほど利用しておらず、蔵書に関する知識が無いためだろうと推定される。当館だけでなく、学校全体で読書や情報取得の必要性を学生に認識させる努力が求められる。

また、Q6で所蔵してほしい資料を尋ねた。意外なことに、授業と関連する分野の“研究用”の書籍・雑誌・視聴覚資料がもっとも求められている。ただし、学生の解釈における“研究用・専門書”であるので、しっかりとした内容ながらも平易な記述であることが要件であろう。しかしながら、現実には当館の図書費の9割近くが教員を対象とする専門書籍に割かれている。この偏りを是正するために、学生に近づきやすい教養書として新書を多く購入するように方針を立てた。これまで当館において、新書の所蔵数は少なく、また別置もされていない状態であった。2008年度末から新たにコーナーを設置し、多くの点数を取りそろえるよう努力している。

Q7では、学生が当館に所蔵を希望する書籍・雑誌・CD・DVDの具体名を記すよう求めた（Q7質問文：図書館に所蔵してほしい書籍、雑誌、CD、DVDがあったら、具体的に書いてください）。要望の出たものは娯楽作品がほとんどで、教育機関の一部門である当館においては優先順位を低くせざるをえない。しかしわずかながら、学習・研究の用に立つ作品も挙げられている。そうした作品の受入れは継続的に行っている。

4.4. 資料の配置

書架へのアクセス（Q13）について尋ねた項目について記す。

Q13.（実際に資料を探す時に）資料の位置はわかりやすいですか。

わかりやすい	297
わかりにくい	254
合計	551

配架場所に関して、回答者のうち46%から「わかりにくい」と指摘された（Q13）。理由については尋ねていないが、以下の可能性が考えられる。

- ① 目録と配架場所の不一致（目録で表示されている資料の紛失・不正確な配架等）
- ② 一般図書の配架位置が分散していること（自然科学分野が本館とは別の8号館電動書架内にある）、
- ③ 楽譜について目録表示とラベル表示が一致しない（現物には楽譜用の特別な記号を用いたラベルを貼っているが、目録の表示は通常のものである）、
- ④ 学生側が図書館の配架方法を知らない、または目録記述から資料の状態（貸出中など）を読み取ることができない。

①について、当館は2008年度中に目録整備と蔵書点検を行うことで対処した。現時点における不備は減少したはずである。②については、現在配架方法の変更を検討しており、2009年度中の実現を目指している。これには人手と新たな書架が必要になる。③については、Q20の自由記述においても不満が寄せられていた。これに対しては、上記②の作業完了の目途がたち次第、詳細な計画を立てる予定である。その際、当館の現在の能力では対応に限界があるため、本学音楽科の教員に協力を仰ぐ予定である。④については、2009年

度から学生に対する図書館利用教育によって対応している。実際、2009年前期に一年生を対象に、図書館主催の特別授業を実施した。

4.5. 蔵書目録

蔵書目録に関連して、検索システム（Q10,11）と目録の記述（Q12）についての項目を見る。なお、当館のOPACは単独の目録ではなく、常葉学園の各校（常葉学園大学・浜松大学・富士常葉大学等）との総合目録システムである。

Q10. 検索機(資料の所蔵を調べるコンピューター、OPAC)は使ったことがありますか。

1. 所蔵を調べるときには必ず使う	29%
2. 使うこともあるが、司書(図書館職員)に聞くことが多い	21%
3. まったく使わない	49%
9. 無回答	1%

Q11. (Q10で1,2の回答をした人のみに)検索結果の表示はわかりやすいですか。

1. わかりやすい	212
2. わかりにくい	189
合計	401

Q12. (Q11で2の回答をした人のみに)なぜ検索結果の表示がわかりにくいのですか。

ヒット結果の一覧が十分に整理されていないように見える	43
結果表示のうち、何がタイトルや著作名で、何が所蔵場所なのかよくわからない。	62
所蔵場所として学園内の他校または「研究室」が表示され、手軽に入手できない。	56
表示された所蔵場所に行っても、実際の本が見つからない。	61
その他	17
合計	239

検索機を利用したことのある学生（N=401）のうち（Q10）、47%は検索結果の表示が分かり難いと答えた（Q11）。その理由を尋ねた結果がQ12である。

Q12で設けた項目にあるように、常葉学園図書館OPACの表示には二つの問題がある。常葉学園のグループ校付属図書館でそれぞれ目録記入をおこなっているため、異なる図書館で別々に購入された同一書籍に、二つ以上のレコード記入がなされるというミスがたまにある。これは本来一つのレコードのみが作られ、所蔵場所が異なることを表示するべきものである。また、検索結果に専任教員の研究室蔵書が表示される。これは、手続き上研究室蔵書に図書館所有の書籍が含まれるためだが、利用者の閲覧が不可能である以上、無用な表示だろう。しかしながら目録システムの管理は当館単独では行われておらず、この二点に関して早急な修正ができない。これらについては、常葉学園内図書館で開催される連絡会で改善を求めていくこととする。

また、そもそも目録を上手く読み取れない学生に対しては、資料の配置（4.4.）における④と同様に図書館利用教育によって対応する。

4.6. 新着図書と視聴覚機器

最後に、新着図書の展示方法（Q14）と、視聴覚機器の充実度（Q15）に尋ねた項目について検討する。

Q14. 入口の「新着図書コーナー」に関心がありますか。

ある	43%
ない	33%
「新着図書コーナー」のことを知らない	24%

Q15. 視聴覚機器について

	2008	2005
充実している	20%	29%
普通	62%	44%
少ない	17%	25%
無回答	1%	3%

当館の新着図書コーナーは図書館入口脇にあり、校内の通行人がガラス越しに本のタイトルを覗くことができるように展示されている。書籍は50点ほどで、ほぼ月一回のサイクルで入れ替えられる。このように、新着図書コーナーは、新しく受け入れた書籍を、図書館に入館する気の無い学生や教員にも興味と関心を呼ぶように設計されている。

しかし、新着図書コーナーについて、2005年よりも認知度は高まっているものの、6割弱の学生はその展示に無関心であるか、または知らない(Q14)。その理由を尋ねてはいないが、展示方法に問題があるか、展示される新着図書に魅力が無いかのどちらかだろう。今のところ、当館では後者の線に沿って対応している。4.3.で述べたように、学生にも読みやすい教養新書を多く購入・展示することで学生の関心を喚起しようと努力しているところである。

視聴覚機器については、実数で125件の不満が見られた(Q15)。2005年に比べて不満の数は減少しているものの、対処が必要な数値である。2009年6月に、視聴覚媒体の閲覧場所を変更し、機器数も増やした。

5. 結論

今回のアンケートによって多くの問題点が見つかった。今後、学生の利用者の便宜を計るために、予算と人員と時間の許す限り、これらの問題点をひとつひとつ解決してゆきたい。

参考文献

常葉学園短期大学図書館之山文庫(2006)“図書館利用調査集計結果報告(抜粋)”『之山文庫だより』No.49, p.8.

附録：調査票と回答用紙 (次ページ以降)

図書館利用調査（2008年9月16日実施）

常葉学園短期大学附属図書館之山文庫

- ・ **本学図書館**の利用について、下記の設問に答えてください。回答は、選択肢のあるものについては**番号**で記入してください。
- ・ 設問は、裏面にもあります。

○あなたの学科、学年

学科 1. 日文科 2. 英文科 3. 保育科 4. 音楽科
学年 1. 1年 2. 2年 3. 専攻科

Q1. 図書館を利用したことがありますか。

1. 週に2回以上
2. 週に1回程度
3. 月に1回程度
4. ほとんどない
5. ない

Q2. 主にどのような目的で利用しますか(複数回答可)。

1. 課題や研究のための資料収集
2. 書籍・楽譜・雑誌・新聞等の閲覧や、CD・DVD等の視聴のため
3. 試験勉強
4. 空き時間の利用
5. コピー

Q3. 開館時間(平日 8:45-19:00 / 土曜日:8:45~13:30)について

1. 現行の開館時間で十分である
2. もっと開館時間を延長してほしい

Q4. 蔵書について。学習・研究に必要な資料が、本学図書館に所蔵されていますか？

1. はい
2. いいえ
3. よくわからない

Q5. 蔵書について。教養を高めるのに必要な資料が、本学図書館に所蔵されていますか？

1. はい
2. いいえ
3. よくわからない

Q6. 下記に挙げる定数の資料のうち、本学図書館で所蔵してほしいと思うものは何ですか？(回答2つ以内)

1. 授業と関連する分野の入門用の著作・雑誌または視聴覚資料（新書など）
2. 授業と関連する分野の研究用の著作・雑誌または視聴覚資料（専門書など）
3. 授業とは直接関連しない、一般教養を高める著作・雑誌または視聴覚資料（資格検定本など）
4. 授業とは直接関連しない、別の分野の専門的著作・雑誌または視聴覚資料（学科に関係しない専門書など）
5. 上記以外

Q7. 図書館に所蔵してほしい書籍、雑誌、CD、DVDがあったら、具体的に書いてください。

Q8. 貸出について

1. 今のままでよい
2. 改善してほしい

Q9. (Q8で2の回答をした人は)理由はどれですか(複数回答可)。

1. 手続きが面倒
2. 貸出期間が短い
3. 貸出冊数が少ない

裏面へ⇒

Q10. 検索機(資料の所蔵を調べるコンピュータ、OPAC)は使ったことがありますか。

1. 所蔵を調べるときには必ず使う
2. 使うこともあるが、司書(図書館職員)に聞くことが多い
3. まったく使わない

Q11. (Q10で1、2の回答をした人のみに)検索結果の表示はわかりやすいですか。

1. わかりやすい
2. わかりにくい

Q12. (Q11で2の回答をした人のみに)なぜ検索結果の表示がわかりにくいのですか。

1. ヒット結果の一覧が十分に整理されていないように見える
2. 結果表示のうち、何がタイトルや著者名で、何が所蔵場所なのかよくわからない。
3. 所蔵場所として学園内の他校または「研究室」が表示され、手軽に入手できない。
4. 表示された所蔵場所に行っても、実際の本が見つからない。
5. その他

※その他の場合は、具体的にその理由を記述してください。

Q13. (実際に資料を探す時に)資料の配置はわかりやすいですか。

1. わかりやすい
2. わかりにくい
3. まともに探したことがないので評価できない

Q14. 入口の「新着図書コーナー」に関心がありますか。

1. ある
2. ない
3. 「新着図書コーナー」のことを知らない

Q15. 視聴覚機器について

1. 充実している
2. 普通
3. 少ない

Q16. 資料の閲覧、貸出、コピー以外のサービスを利用したことがありますか。

1. ある
2. ない

Q17. (Q16で1の回答をした人は)どのようなサービスを利用しましたか(複数回答・可)。

1. 貸出中の資料の予約
2. 資料の購入希望(リクエスト)
3. 雑誌記事(論文)検索
4. 他の図書館からの資料の取寄せ(文献複写・資料借受)
5. 他の図書館を利用する際の紹介状の発行

Q18. 司書の対応について

1. 良い
2. 普通
3. 悪い

Q19. (Q18の回答について)どんな時にそう感じましたか。また、希望・要望などがあったら、書いてください。

Q20. 全体的な希望・要望などがあったら書いてください。

ご協力ありがとうございました。

図書館利用調査(2008年9月16日実施) 回答用紙

常葉学園短期大学附属図書館之山文庫

学科				
学年				
Q1				
Q2				
Q3				
Q4				
Q5				
Q6				
Q7				
Q8				
Q9				
Q10				
Q11				
Q12	理由:			
Q13				
Q14				
Q15				
Q16				
Q17				
Q18				
Q19				
Q20				